

中国プロジェクトの 過去と将来

2017年はアメリカ、中国経済の回復に牽引され、また日本2020年オリンピック開催など好要素にも影響され、設備投資牽引と受注増加による機械工具商社にとっては良い1年となった。中国プロジェクトにとってはチャレンジ的な1年だった。

直需お客様向け売上が前年度より2割アップ、代理店向けは横ばい。鑄造部品販売が1割アップとトータル的に1割売上アップの結果となった。株州工具の標準超硬製品に加え、焼入れ鋼材、鑄物高速加工用CBN工具、ダイヤモンドフライス工具をメインで製造している北京ワールドダイヤモンド工具、特殊工具を製造する上海華昇、上海ゾロン合わせて4社メーカーが主力となる。品質と加工精度の大幅アップ、自社開発製品の好調な発売に加え、大手自動車部品メーカーへの量産供給も始まる。特に上海華昇と北京ワールドダイヤの自社開発能力が重要、日本メーカーと違う発想で高速、高効率、長寿命加工できる工具の開発も成功した。今までは日本製の既存工具をコストで切替えるのが主要販売ターゲットだったが、自社開発工具による新規ライン、開発工具への参加、工具寿命改

善などお客様にさらなる工具価値を提供することによるレベルアップができたことが大変良い経験だった。数社業界大手お客様のご採用により信頼性の向上も証明できた。

2017年6月に東京要素展に初めて出展。中国鑄造メーカー3社を初めて日本のお客様に紹介できた。まだ大きな成果をあげていないが、中国のステンレス、鑄鉄に大変ご興味のある数社のお客様と取引開始し、テスト段階に入っている。正式採用までまだ時間かかるがお客様、メーカーと共に困難を乗り越え量産採用に向けて慎重に活動中。

2018年度工具、既存部品売上10%アップを確保、新規部品事業の創出に努める。営業所に所属する既存お客様へのフォロー、訪問や新製品プレゼン、より迅速に対応することを心がける。粗、仕上げ、部品素材をお客様に提供できる中国プロジェクトの新面貌を構築していく。



上海華昇製エンドミル



上海華昇本社



生産現場